

霧ヶ峰基金会報

2008年4月号(通算22号)

発行：特定非営利活動法人 霧ヶ峰基金

〒393-0061 長野県諏訪郡下諏訪町3236番地 Takafactoryさま2階

TEL 090 9668 3380

e-mail kirigamine.kikin@gmail.com

URL <http://kirigamine-fund.jp>

ブログ 「霧ヶ峰のWA!」 <http://blog.canpan.info/kirigamine-wa/>



上昇気流

霧ヶ峰には諏訪盆地から風が吹きつけ上昇気流が生まれます。この上昇気流は草原や湿原の植生維持に欠かせない雨や霧をもたらすと同時に、もうひとつの文化を生み出しました。

中央気象台長・藤原咲平(諏訪市角間新田出身、小説家・新田次郎のおじ)は、霧ヶ峰の気象がグライダーの滑空に適していることに着目し、昭和7(1932)年に「霧ヶ峰グライダー研究会」を設立しました。グライダーがはじめて霧ヶ峰の空に飛び立ったのは翌年7月。昭和11(1936)年には国内初の全国大会が開催され、3万人もの観衆が霧ヶ峰を訪れました。

諏訪盆地からの上昇気流に乗って、銀色の翼がきらりとひかる光景は、霧ヶ峰のさわやかな空気にとっても似合っています。このふたつの機体もこれから訪れるシーズンに向け、飛び立つ準備を始めているのでしょう。

(参考：諏訪市史下巻)

2007年度の報告と2008年度活動方針についての説明会を開催いたしました。

4月19日10時より、2007年度事業経過及び2008年度事業計画案の説明会を、諏訪市総合福祉センターにて行いました。今回の説明会は2008年度事業計画案に示された「会員間の交流、情報交換、アイデアの供出をする」活動報告会にあたるものであり、「2007年度内のヒュッテ取得断念等についての会員向けの説明会を行う必要があるのではないか」、「会員に対して法人の活動報告を実施する必要性は高いのではないか」という2008年度事業計画を策定する過程の中で立案がなされ、今回の開催の運びとなりました。

最初に4月1日より就任した新理事長からの挨拶と法人役員の変更についてのご案内を行った後、2007年度の事業経過について説明を行いました。すでに一部の報道機関より記事記載のあった「ヒュッテ御射山」取得の断念についてと、断念に至るまでの経過をご報告しました。

- ・エコツーリズムの普及啓発では、事前の広報活動が行き届いたこともあり「八島湿原・夜さんぽ」については地元の方の参加者が多く、非常に好評であった。
- ・エコ商品製作では、オリジナル手ぬぐいがご好評を頂いていることや、雑木処

理の際に伐採された樹木を用いた「雑木箸製作キット」を試験的に販売したところ、主に若い女性層が購入した。

- ・保全事業については、助成金を申請して実施する予定であった登山道の道標整備は、長野県が事務局となり発足した「霧ヶ峰環境保全協議会」との動向をあわせるため中止した。

- ・調査研究事業は2007年度内において気象記録、生物季節表の記録を実施。出版刊行事業については、月1回の会報発行とブログでの積極的な情報発信を行ったなどを報告いたしました。

2008年度の事業計画では、今年度より新規で計画をする5月下旬から開始する環境調査、現在、実施箇所については調整を図っている登山道の補修と応急的処置・方法の開発、GIS情報の収集と構築の準備、霧ヶ峰に関する文献・調査情報等の収集。継続事業では、エコツアーの実施とオリジナルグッズの製作について説明をいたしました。

最後に、出席された会員の皆様から御意見を頂戴いたしました。

- ・会員として活動を行いたい、誰が

入会しているかわからなく、協力できない場面が多い。

- ・一緒に活動ができる仲間を増やすため、名前や住所(市町村名程度まで)の名簿を作成、会員内に配布したらどうか。

- ・このような会議や事業を行うにあたり、参加する会員が増えるような仕掛けを作る必要があると思う。

- ・昨年12月までは霧ヶ峰に拠点があり、誰かが必ずいるということでフォローができたと思うが、これからは会員が集まる機会を積極的に持たなくては、退会者が増えていくのではないかと。

- ・法人役員や会員にどんな人がいて、法人内でどのような活動しているのか、もっと積極的に見えるようにする必要があると思う。

当法人は、今後もこのような活動報告会を計画しております。会員の皆様からのご支援を頂き、地道に前向きな活動を重ねて、当法人の最終的な目標とする「霧ヶ峰の環境保全のための霧ヶ峰型エコツーリズムの確立」を達成するために努力したいと思います。

(副理事長 藤田香)

登山道のぬかるみ対策について

霧ヶ峰高原の一部の登山道は、毎年のように降雨による水たまりができる箇所があり、登山客が難儀しています。(写真：右)そうした場所は、登山客が水たまりを迂回しようとして湿原や草原内に踏み込み、結果的に登山道が拡幅し、雨水により表土が流失している様子が見られています。

しかし、そのような箇所について現状では通行者が比較的少なかったり、物資の運搬が困難であったりするなど、投資対効果から考えると早期に木道敷設する等の積極的対策が困難と思われず。

現在、これらを通る登山客に対して、行政機関からロープから先へ踏み込んだりしないように、また長靴などを履いて通行するようになどのお願いの看板を設置したりしていますが、現状はあまり効果が見られないように考えられます。



そこで、当面の対策として小型の「下駄状のこ」(写真：左)を6月中旬の梅雨時までに設置を

することを関係機関と調整中です。これを設置することにより、登山客は快適に歩行ができ、湿原や草原内に迂回することも防止できます。

長さ120cm、幅30cm、重量は約6kgで、木道等が敷設され不要になった場合でも、撤去は簡単です。必要な場所に移動することも容易という利便性もあります。

設置後、定期的な評価・改良を行い、他の場所でも応用できるように研究していく予定です。(担当：西村増夫)



「宝探し」の効能 ～資源の再発掘・再発見とは～

全国で、「まちづくり」が盛んである。いまや、地方都市のどこに行ってもこの活動は非常に熱心で、「地域振興」の活動として非常にポピュラーになってきている。

この「まちづくり」は都市部にヒトとモノが集中し、地方は商店街の衰退や人口流出などの問題を抱え、コミュニティとしての機能を失いつつある地域を再度活性化しようとする活動といえる。

こうした活動によく用いられるのは「地域のマップを作ろう」という手法である。たかが地図、と思いきや、マップ完成までに参加する人々は知らず知らずのうちに、膨大な情報に触れ、収集し、地域が抱える問題やそれまで見過ごしていた地域固有の魅力に気がつくのである。

この手法は「自然を守ろう」という活動にも実は用いられる。マップを作ることで対象地域の全体像を把握し、一枚の紙の上に情報を入れることで対象地域が視覚的にわかりやすく表現される。

2008年度から霧ヶ峰基金は八島ヶ原湿原、御射山、沢渡の植生と水質について継続的な調査を開始する計画である。

この調査の目的は、まさにこの「宝探し」でもあるといってもよい。

昭和30年代まで行なわれていた草原管理は、生活スタイルの変化と共に行われなくなってきつつある。たとえ管理をしたくても、作業には多くの費用と人手がかかる。第一、現代において刈った草を利用する方法が見当たらない。花のあふれる草原景観を土地所有者が人手と費用をかけて整備したとしても、そこに土地所有者が収益を得る道がないのが現状である。これでは、霧ヶ峰の誇る草原景観を長く維持することは難しい。

また、霧ヶ峰の草原景観は諏訪地域の人々が築き上げた暮らしの証人である。霧ヶ峰の自然環境を知り尽くし、生活の中に霧ヶ峰を取り入れてきた知恵の結晶である。この草原景観が消え去ることは、その生活文化の証人が消え去ることも意味する。恐らく、一度



消えてしまったら、二度と取り戻すことはできないだろう。

そうした先人の遺した財産を受け継ぐ作業の第一歩がこの「宝探し」で、多くの人々が参加し関わることで、霧ヶ峰と人が現代に合った新しい関係を作りあげる重大なヒントをみつけることができるのではないかと考えている。また、集まった情報を整理しマップにすることで、霧ヶ峰を訪れる多くの方にその魅力を伝え、諏訪地域の人々が霧ヶ峰を大切に思う気持ちと同じような気持ちで霧ヶ峰に接することができる、十分な情報を持つツールになるのではないかと期待もこめている。

(副理事長：降旗香代子)

いつもあたたかいご支援、ありがとうございます！

2008年3月1日～3月31日までの間に、91,170円の寄付金をいただきました。これらの寄付金は、NPO法人霧ヶ峰基金の活動を通じて、霧ヶ峰高原の環境保全活動に活用されます。

あたたかいご支援に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

。..*。霧ヶ峰基金は活動の趣旨にご賛同してくださる方の寄付金を、随時受け付けております。..*。

金額は1円以上から、下記の郵便口座までお願いいたします。

全国の郵便局からいつでもお手続きいただけます。(手数料はご負担ねがいます。)

・口座番号 00520-7-44684

・加入者名 特定非営利活動法人 霧ヶ峰基金

ご寄付をいただいたかたのお名前の取り扱いについて

2008年4月より寄付金をいただいたかたにつきまして、金額に関わらず、ご本人様が希望されない場合を除き、会報上にてお名前をご紹介させていただきます。あらかじめご了承ください。(お名前のご紹介を希望されない方は、その旨をお知らせください)

活動記録(2008年3月1日～3月31日)

3月	8日	・次年度以降の活動について話し合い(諏訪市湯小路いきいき元気館、正会員対象)
	9日	・蓼科東急リゾート、スノーシューツアー実施 ・「スワイチ」4satかみすわ“をかしまつり”反省会
	14日	・「霧ヶ峰環境保全協議会」(諏訪合同庁舎)、傍聴
	18日	・諏訪アライアンスプロジェクトさいか「スワイチ」全体反省会
	21日	・LCV「じきつく」呑み歩きPR参加
	22日	・春の上諏訪街道呑み歩き、ブース出展
	25日	・会報3月号発行

(2008年3月末日現在) 個人特別会員72名 個人一般会員84名 法人会員4団体 正会員11名

NPO法人霧ヶ峰基金では、当法人の運営方針に賛同し、事業提案、法人運営、企画実施を一緒にして下さる正会員(定款上の社員、議決権あり)を若干名募集しています。

定款はNPO法人霧ヶ峰基金ホームページ(<http://kirigamine-fund.jp>)をご覧ください。

興味をお持ちの方は NPO法人霧ヶ峰基金事務局に電子メールでお問い合わせください。

e-mail kirigamine.kikin@gmail.com (担当：降旗)

ご連絡をお待ちしております。

見つめよう、霧ヶ峰。話そう、未来。

3月22日(土)諏訪市内「上諏訪街道呑み歩き」、4月20日(日)下諏訪町内「春の下諏訪三角八丁」にてブース出展をいたしました。いずれの会場も多くのおみなさまのご来場をいただき、誠にありがとうございました。

3月22日「上諏訪街道呑み歩き」

(諏訪市元町、宮坂醸造さま駐車場)

今回も宮坂醸造さまの駐車場をお借りして、水源地・霧ヶ峰高原から一歩進めて、草原景観と樹木についてパネル展示と「雑木」の活用などについて、来場したお客さまと一緒に話したり、考えたりするコーナーを設けました。



「ほろ酔い加減のお客さまが見てくださるかな?」と心配でしたが、意外や意外。お客さまは真剣にパネルを見たりお声をかけてくださったりと興味津々でした。



この日は好天にも恵まれ、呑み歩き史上最高の来場者数で、スタッフも楽しい一日を過ごしました。

出展にあたり、宮坂醸造さま、諏訪サブリさま、松尾商店さまに多大なご協力をいただきました。

誠にありがとうございました。

4月20日(日)「ぶらりしもすわ・春の三角八丁」

(下諏訪町 町営御田町駐車場)

下諏訪町で例年、春と秋に開催されている地域イベント「三角八丁」に、霧ヶ峰基金は初参加となりました。雑木を加工した手作り箸の実演やキットの販売などを試みました。

はじめてナイフに触れる子供たちもいて、最初はおっかなびっくりでしたが、すぐにコツをつかんでいたようです。

なかなか思うように削れなかったようですが、木の感触は楽しんでもらえたように思います。

出展にあたり、NPO 法人匠の町しもすわ・あきないプロジェクトさま、みたまちおかみさん会さま、Takafactoryさま、多くのおみなさまのご協力をいただきました。ありがとうございました。



(担当：降旗香代子)

NPO 法人霧ヶ峰基金の活動を支援して下さる法人会員のおみなさまです。



株式会社エルシーブイさま



信州総合開発観光株式会社さま



株式会社永田製作所さま



株式会社クリンビーさま

NPO 法人霧ヶ峰基金は活動を支援して下さる企業・団体さまのご入会を随時受け付けております。

お問い合わせはNPO 法人霧ヶ峰基金事務局 (e-mail kirigamine.kikin@gmail.com.) にて承ります。

電話番号が変わります。

都合により、2008年6月1日より電話番号と電子メールアドレスが以下のように変更になります。お手数をおかけますが、どうぞよろしくお願いたします。(おかけ間違いのないよう、ご注意ください。)

電話 090-9668-3380 (FAX 不可)

電子メールアドレス kirigamine.kikin@gmail.com



情報発信中です。

ブログ「霧ヶ峰のWA!」(<http://blog.canpan.info/kirigamine-wa/>)では、霧ヶ峰基金の最新の活動情報やご案内を随時掲載しております。どうぞご愛読ください。携帯電話からもご利用いただけます。(パケット通信料がかかります。ご注意ください) ご利用ください、QRコード



編集後記

諏訪の平地で桜が満開を迎えるころ、実は愛車が故障していて修理中…。しばらく霧ヶ峰に行くことができませんでした。(代車だし、ノーマルタイヤだし。)
「ああ、きっと雪どけが、毎日毎日進んでいるに違いない…」と、各団体さんが設置しているライブカメラをインターネット上で見ながら、やきもきと愛車の修理あけを待っていました。

納車一番、さっそく霧ヶ峰へ!

しばらく霧ヶ峰に行かれないうちに、すっかり雪は消え、濃厚な春の気配。ヒバリやノビタキのさえずりが草原にはあふれていました。陽だまりにはスミレやシシウドの芽生えたち。花のトップランナー、ザゼンソウ…。

霧ヶ峰の四季の中で、私の最も好きな季節が始まっています。か